

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	5	—	事業名	職員福利厚生事業	担当部課	市長公室人事課
------	---	---	-----	----------	------	---------

基本情報	総合計画	基本方針	5	みんなの力を結集する自治と協働のまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	6	住民の要請に的確に対応する職員を育てる	款	2	総務費
		施策の進め方	—		項	1	総務管理費
	まちづくり 行程表	フラッグ	—		目	4	人事秘書管理費
		政策分類	—		大事業	4	職員福利厚生事業
	その他(関係法令、要綱等)		長久手市職員互助会規約				
事業開始の背景、経緯等		職員の福利厚生に資するため。					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ・産業医、顧問精神科医による健康相談、健康教室、ストレスチェックの実施 ・職員健康診断、人間ドック、特定保健指導の実施 ・職員互助会による給付、レクリエーション事業					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 職員					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 職員の福利厚生と健康管理による予防					
	事業を構成する事務事業	① 職員健康診断事業	現状維持	④			
	② 職員互助会補助事業	現状維持	⑤				
	③		⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	決算	予算		12,446	12,892	13,634
決算					12,181	13,103	13,308	
人件費(B)	千円	決算		—	8,214	13,946		
総コスト(A)+(B)	千円	決算		—	21,317	27,254		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A ストレスチェック集団分析総合値	—	目標	—	—	100	100	100
			実績	—	—	89	93	
	B		目標					
			実績					
C		目標						
		実績						
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A ストレスチェックの集団分析結果による総合の健康リスク(全国平均100とした場合の値。100より小さい程リスクが少ない)								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 労働安全衛生法の改正により、平成28年度から年に1回のストレスチェック実施が義務化。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 職員が自身のストレス状況等を把握するため、対象者全ての受検を目標としており、ほぼ達成できている。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 健康診断の受診結果による要精密検査者の追跡調査や福利厚生事業の利用率による分析方法の検討

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 健康への不安の削減やリフレッシュできる環境の整備
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 5年後を目途に、健康に関する教室や福利厚生事業を充実させる。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		職員福利厚生事業									
番号	①	事務事業名	職員健康診断事業	款	2	項	1	目	4	大事業	4	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度			終了（予定）年度			-						

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)	職員に対し、健康診断、人間ドックを受診させる。
	意図	(対象をどのような状態にしたいか) 健康診断の受診等を通し、職員の健康管理を行う。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算		10,266 9,997	10,626 10,861	11,253 10,961	10,608
＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞							
① 職員健康診断委託						8,644	千円
② ストレスチェック業務委託						874	千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
健診・ドック受診率	%	目標	100	100	100	100	100
		実績	99.3	98.4	96.2	100.4	
ストレスチェック受検率	%	目標	-	-	100	100	100
		実績	-	-	93.1	97.6	

＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞

- 人間ドック（251人受診） ・ ストレスチェック（611人受検）
- 健診（217人受診）
- 緑内障検査（60人対象）
- 予防接種（11人接種）

4. 事務事業を取り巻く環境変化

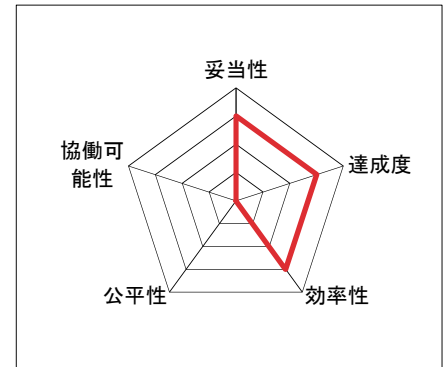
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
平成30年度より、共済組合による人間ドックの助成対象が35歳以上から30歳以上に拡大される。

5. 前年度からの改善状況

＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞
※新規行政評価対象
(何をどのような状態に改善したのか)
-

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	-
協働可能性	-



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
40歳以上の職員に対し、5年毎に緑内障検査を独自に実施。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
-

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
人間ドックの受診対象者の拡大を検討（35歳以上から30歳以上に対象を拡大）。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		職員福利厚生事業									
番号	②	事務事業名	職員互助会補助事業	款	2	項	1	目	4	大事業	4	中事業	2
事務事業の期間	事務事業開始年度			—			終了（予定）年度	—					

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 職員と市による費用補助により、福利厚生事業を運営する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 職員の保養の増進

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算		2,180 2,184	2,266 2,242	2,381 2,347	2,103
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 職員互助会補助金						2,347	千円
②							千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
職員1人あたり利用回数	回	目標	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
		実績	5.1	5.2	6.4	6.1	
		目標 実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
<ul style="list-style-type: none"> ・福利厚生倶楽部による施設等の利用助成（利用者2178人） ・結婚、出産、資格取得等への給付事業（利用者478人） ・チケット、賠償保険等の斡旋事業（利用者147人） ・スーツケース等備品貸出事業（利用者33人） 							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

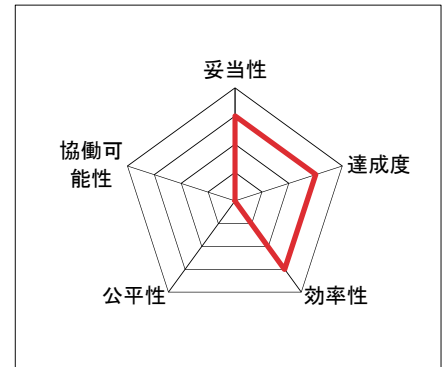
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
消防広域化により、平成30年度の会員数が減少。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
※新規行政評価対象
(何をどのような状態に改善したのか)
—

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	—
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
給付事業のうち、資格取得祝金については、現状に則して対象となる資格を拡充している。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
利用契約を結んでいる施設（11施設）の利用実績が低い。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
利用契約を結んでいる施設の利用実績が低いいため、職員へのアンケート調査等を通し、施設の見直しを検討。